2019 年 10 月 8 日

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

シンガポール取引所（SGXL）

当期利益が 11 年ぶり高水準、アジア市場の変動性上昇を受けて FTSE China A50 のデリバティブ取引が急増

シンガポール |証券・商品先物取引| 業績フォロー

BLOOMBERG SGX:SP | REUTERS SGXL.SI

- 7/31 発表の 2019/6 通期は、営業収益が前期比 7.7%増、営業利益が同 8.5%増、純利益が同 7.7%増。堅調なデリバティブ事業に後押しされて当期利益は 11 年ぶりの高水準となった。
- 営業収益構成比51%を占めるデリバティブ事業の営業収益が同35.3%増の4.59億SGD。特に米中貿易摩擦によるアジア市場の変動性上昇を受けてFTSE China A50の取引枚数が同41%増の1.06億枚に拡大した。
- アジア経済の成長、アジア市場の国際化、および OTC と上場市場の一体化の潮流が同社の成長を今後も後押ししていくと期待される。

What is the news？

7/31発表の2019/6通期は、営業収益が前期比7.7%増の9.09億SGD、営業利益が同8.5%増の4.61億SGD、当期利益が同7.7%増の3.91億SGD。営業収益は2000年上場以来最高となり、当期利益は11年ぶりの高水準となった。米中貿易摩擦激化により変動性が増したアジア市場のリスク管理と投資ソリューションに対する海外機関投資家の強い需要を受け、デリバティブの取引枚数と建玉残高が過去最高水準を記録。現物取引も2H（1-6月）は取引増に伴い好転した。営業費用はテクノロジー能力拡張と国際プレゼンス成長に伴う人件費増加により同6.9%増の4.48億SGDだった。

セグメント別の営業収益は以下の通り。営業収益構成比51%のデリバティブ事業が同35.3%増の4.59億SGDと業績を牽引。エクイティおよびコモディティの合計取引枚数が同21.4%増の2.40億枚。特にFTSE China A50が同41%増の1.06億枚と伸びたほかMSCI NTR（Net Total Return）指数が同7倍の700万枚、FX先物が同46%増の2,080万枚、鉄鉱石デリバティブが同19%増の1,680万枚と増収に貢献した。市場データおよび接続事業も同4.3%増の1.02億SGDと増収に寄与。その一方、株式・債券事業は、発行体向けサービスが同7.5%減の7,970万SGD、証券トレーディング・クリアリング事業が同17.6%減の1.82億SGD、ポストトレードサービス事業が同13.7%減の8,570万SGDとなり、合計で同14.5%減の3.47億SGDだった。

How do we view this？

2020/6通期会社計画は、営業費用が前期比3.8-6.0%増の4.65-4.75億SGD、テクノロジー関連の資本的支出が同▲8.4-▲17.6%の4,500-5,000万SGD。営業費用増により国際的プレゼンスを更に拡大して海外主要市場からの資本調達案件増を目指す方針である。アジアがグローバル経済の成長を牽引する基調は変わらず、アジア市場の国際化、およびOTC（店頭取引）と上場市場の一体化の潮流などが同社の成長を後押しし続けると見込まれる。主要国の株価指数先物取引を取り扱うことで海外機関投資家からの裁定取引需要を捉える戦略は健在であり、FTSE China A50の他、日経平均先物やNifty50先物についても日本株やインド株の相場環境によっては取引枚数の増加を期待できよう。2020/6通期市場予想は、営業収益が同4.7%増の9.52億SGD、当期利益が同5.1%増の4.11億SGDである。

業績推移　※参考レート 1SGD=77.66円

事業年度	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6F	2021/6F
営業収益（百万SGD）	800	844	909	952	993
当期利益（百万SGD）	339	363	391	411	431
EPS（SGD）	0.32	0.34	0.36	0.39	0.40
PER（倍）	26.34	24.79	23.42	21.90	20.92
BPS（SGD）	0.97	1.02	1.02	1.09	1.17
PBR（倍）	8.69	8.26	8.26	7.73	7.21
配当（SGD）	0.28	0.30	0.30	0.32	0.33
配当利回り（%）	3.32	3.56	3.56	3.80	3.91

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想（SGD）	**0.32**	（予想はBloomberg）
終値（SGD）	**8.43**	2019/10/7

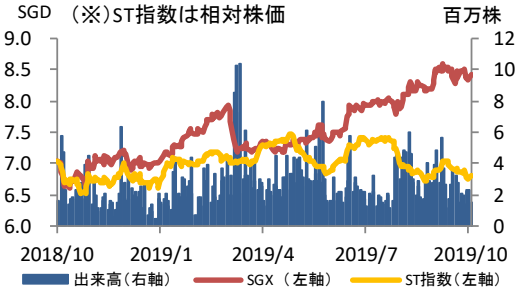
会社概要

1999年設立。アジアを代表する資本市場インフラであり、取引所やクリアリングハウスの所有、運営を行っている。株式、債券からデリバティブ商品までマルチ・アセットに対応しており、上場から取引、清算、決済、保管およびデータサービスまでに至る、総合的なサービスを提供している。上場株式の40%がシンガポール国外の発行体のものであるほか、上場公社債の75%が国外で組成されたものであり、アジアで最も国際化が進んでいる取引所である。

デリバティブ商品では、アジアの株価指数やコモディティ、通貨を原資産とした商品まで、一連の商品を提供しており、中国、インド、日本、アセアンの株価指数を原資産とした商品では、世界で最も流動性が豊富なオフショア市場である。アジアの清算機関のパイオニアとしてリスクマネジメントや決済キャパシティは世界的に定評があるほか、世界で初めてBIS支払・決済システム委員会と証券監督者国際機構専門委員会の定めた「金融市場インフラのための原則」を採用した取引所である。

企業データ（2019/10/8）

ベータ値	0.71
時価総額（百万SGD）	9,028
企業価値=EV（百万SGD）	8,361
3ヵ月平均売買代金（百万SGD）	22.1



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2019/10）

	（%）
1.SEL HOLDINGS PTE LTD	23.34
2.日本取引所グループ	3.44
3.VANGUARD GROUP	2.23

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

アナリスト

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

増渕 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp
+81 3 3666 0707

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103ー0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号
TEL:03-3666-2101 URL：http：//www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：フィリップ証券 リサーチ部
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増渕透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項＞